

Ⅳ-408

福島, 宮城, 岩手に於ける近代土木遺産に関する研究

日本大学 工学部 正員 藤田 龍之

日本大学 工学部 ○正員 知野 泰明

1. はじめに 平成5年度より、土木学会は文部省科学研究費補助を受け、明治から第2次大戦終了までに建設された土木構造物の実態調査を開始した。これは全国規模の調査であり、その目的は、近代土木構造物の現存状況を把握し、それらを従来の機能的価値に留まらず、文化財的価値という新しい観点も含めて、総合的に評価することにある。我々は、この調査で、福島, 宮城, 岩手の3県について担当している。平成6年度の調査終了に当り、3県に残る土木構造物のおおよその傾向などを把握することができた。ここでは、その内容を含め、同年度の調査結果を簡潔に報告するものである。

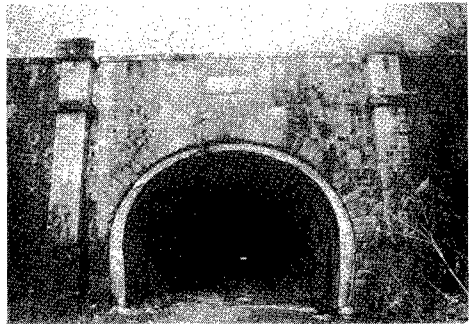
2. 調査方法 本調査は、以下の参考資料を収集、データベース化し、これに基づき現地調査を行った。
・市町村アンケート ・各県の橋梁, トンネル現況台帳
・土木関連の書物 ・その他(現地で発見した物など)

3. 調査結果 ここでは、特に重要、又は各県の特徴を代表するものを抜粋し紹介する。

- ①信夫発電所〔福島県福島市, 昭和14年(1939)施工〕
最大出力-5,950kw, RC建屋
- ②二ッ小屋隧道〔福島県福島市, 昭和9年(1934)施工〕
長さ-384m, 煉瓦積みの冠木門型ポータル
- ③栗子隧道〔福島県福島市, 昭和9年(1934)施工〕
長さ-870m, 石積みの冠木門型ポータル(写真なし)
- ④明治潜穴〔宮城県宮城郡, 明治43年(1910)施工〕
長さ=1,309m, 排水トンネル
- ⑤小滝沢橋〔宮城県仙台市, 昭和14年(1939)施工〕
橋長=20.8m, 石造りアーチ橋
- ⑥青下第一ダム〔宮城県仙台市, 昭和8年(1933)施工〕
堤高=17.4m, 玉石コンクリート造り
- ⑦達曽部橋梁〔岩手県宮守村, 大正4年(1915)施工〕
橋長=98.5m, RC開腹アーチ橋
- ⑧北上大橋〔岩手県川崎村, 昭和13年(1938)〕
橋長=204.40m, 鋼アーチ



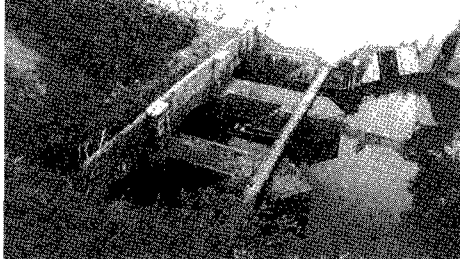
①信夫発電所



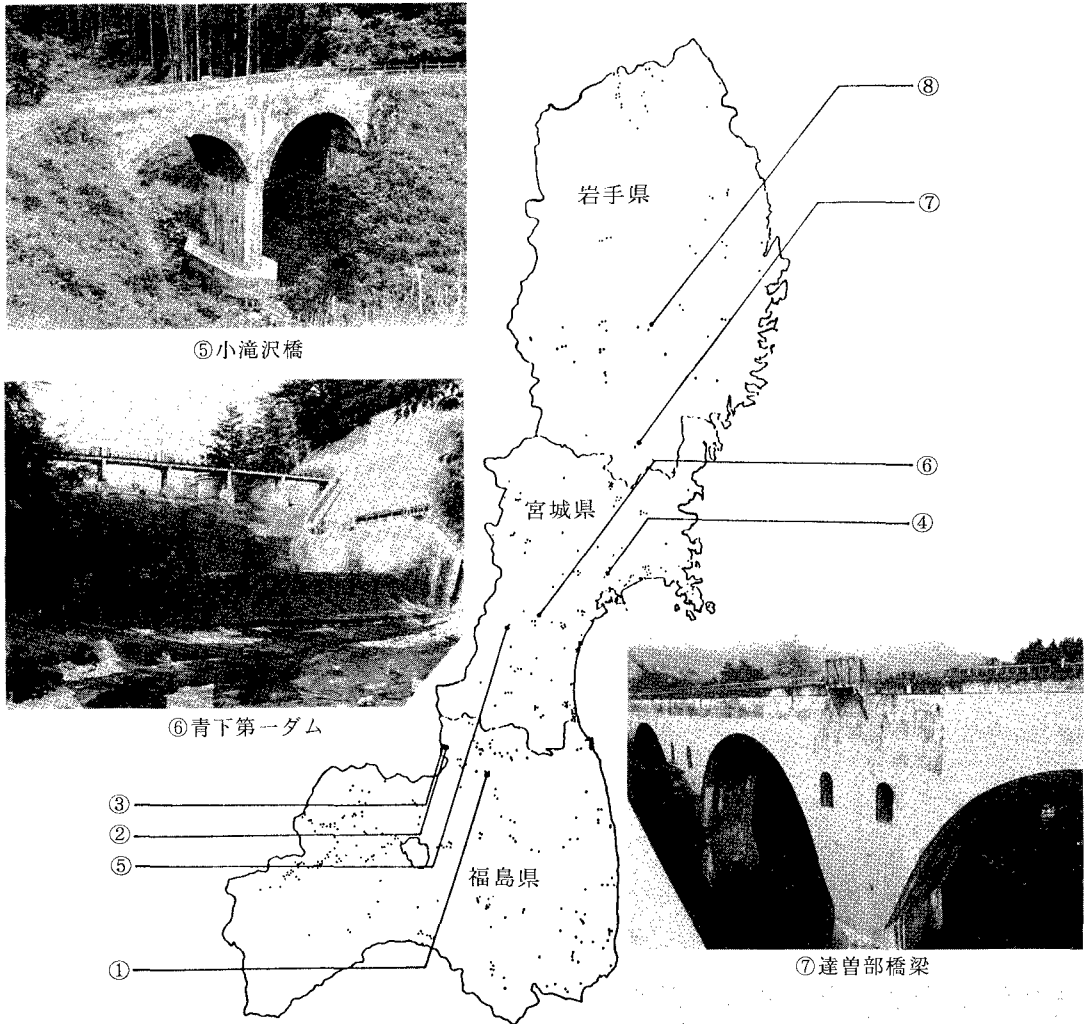
②二ッ小屋隧道



③栗子隧道



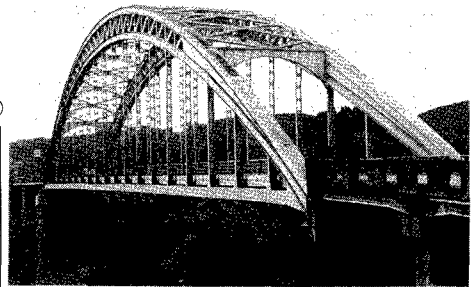
④明治潜穴



図－1 各県内における調査地点
（数字は、左頁に掲載した各遺産の位置を示す）

表－1 県別・分野別土木遺産調査件数（鉄道は隧道含まず）

	橋梁	堰堤	隧道	発電所(取水堰)	鉄道	その他	合計
福島県	85	12	15	51 (12)	44	39	258
宮城県	53	11	3	9 (0)	4	33	113
岩手県	50	4	2	18 (16)	9	1	100
合計	188	27	20	78 (28)	57	73	471



⑧北上大橋

4. まとめ 今回の調査により各県に於いて以下のような傾向があることが分った。

福島県：R C 桁の橋が多い。当時の技術を伝える煉瓦造り隧道に保存の価値が見られる。

宮城県：多種にわたる遺産的土木構造物が今なお良好な状態で保存、利用されている。

岩手県：アーチ橋が多い。取水堰堤ではローリングゲートなど珍しいものが見られた。